

～都に鄙に、また山に～
郵便局を旅する地域活性マガジン

散歩人

SANPOJIN
7月号 vol.22

局長さんご推薦！

お取り寄せの逸品 全国産品プレゼント
(青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島県)

明日へのまつり
みずうみの祈り
東北

わたしと手紙

武 豊さん

散歩人 SANPOJIN 7月号 (vol.22)

平成25年7月1日発行 発行/有限会社 コーテイ 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル14F

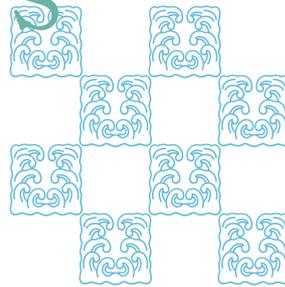
定価: 250円 (本体: 239円)





contents

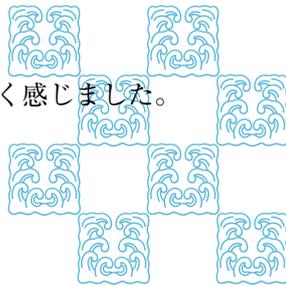
散歩人 | vol.22 | Jul. 2013



〈特集〉

2 明日へのまつり みずうみの祈り 東北

清涼な空気まで色づくかのような新緑、
神秘的なときをたたえた湖の輝き。
秘湯を訪ねて、まちをめぐる。
躍動のまつりに明日への思いを強く感じました。



10 わたしと手紙 武 豊さん

12 郵便局のあるまちをたずねて 宮城県南三陸町、福島県飯舘村

局長さんご推薦!

16 お取り寄せの逸品 全国産品プレゼント (青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県)

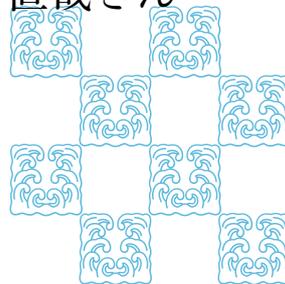
19 座右宝 より素敵に生きるために 南 直哉さん

20 切手で訪ねるふるさとの旅

22 川柳「二匹目のどぜう」

24 読者のみなさんから／コラム「龍の鱗」

25 バンコク雑記帳／読者プレゼント



表紙:奥入瀬溪流(十和田市)

裏表紙:五所川原立佞武多(五所川原市)



十和田・八甲田

神秘的な紺碧をたたえて
十和田湖

気高さと優美さをまとい、深く神秘的な紺碧をたたえた十和田湖は、標高400mの山中にあります。
15万年ほど前から繰り返された火山の噴火によりできた二重式カルデラ湖で、奥入瀬溪流の源流です。
散策やサイクリング、遊覧船、ボートなど楽しみ方は多彩。

お問い合わせ 十和田湖総合案内所
電話 / 0176-75-2425
交通 / JR 八戸駅からバスで約2時間15分 ほか
http://www.akitafan.com/access/information_detail.html?data_id=79



暗がりという愉悅
ランプの宿 青荷温泉

刻々と印象が変わる露天風呂。ランプの灯に誘われて



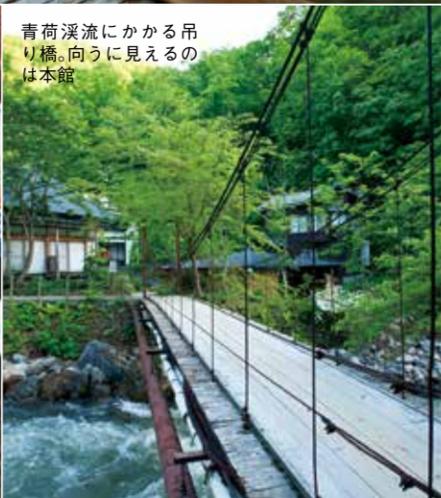
青森ヒバ造りの湯。四季のうつろいが楽しめる

青荷溪流の音しか聞こえない「ランプの宿」青荷温泉は、日が暮れると幻想的な雰囲気になります。
露天風呂、内湯など4つの風呂が点在。岩魚の塩焼きや山菜など野趣いっぱい。田舎料理も魅力です。
照明はランプのゆらめきだけ。部屋にはテレビ、冷蔵庫、コンセントもなく、ケータイも通じません。月明かり、そして満天の星空。不便という名の贅沢さ。

とき / 青森県黒石市大字沖浦字青荷沢滝ノ上1の7
電話 / 0172-54-8588
交通 / 弘南鉄道黒石駅からバス40分、虹の湖公園からシャトルバス(要予約)
料金 / 1泊2食9,600円(10~3月10,650円)
<http://www.yo.rim.or.jp/aoni/>



夕食の膳。岩魚塩焼、鴨鍋のほか、ゼンマイ・ヤマクラゲ・ヤマウド・アカシアの花などの山の幸が並ぶ



青荷溪流にかかる吊り橋。向うに見えるのは本館



湯治場の風情を残す
すかゆ 酸ヶ湯温泉

ところ / 青森県青森市荒川南荒川山国
有林酸湯沢50
電話 / 017-738-6400
交通 / JR新青森駅からバスで約1時間15分
料金・時間 / 立ち寄り入浴7,000~17,000円(8:00~9:00は女性専用タイム) / 6,000円 / 1泊2食で10,650円 / 宿泊可。
<http://www.sukayu.jp/index2.html>

八甲田山麓に点在する名湯の一つで、広さ160畳の無柱の総ヒバ造り「千人風呂」は有名。昔から変わらない混浴大浴場は湯治場の風情を残しています。
温泉入口から見上げると、八甲田山最高峰の大岳が望めます。





祭の歴史を映像や写真で紹介する「ねぶたミュージアム」。ねぶた師が下絵を書き、針金で骨組みし、奉書紙を貼り、色つけと続く。全工程約1年。

豪華絢爛な極彩色の山車灯籠が勇壮にまちを練る——8月初旬、青森県各地で行われる「ねぶた」「ねぶた」。青森市と青森市内周辺や下北地方などでは「ねぶた」、弘前市・平川市・黒石市など津軽地方では「ねぶた」と呼ばれています。

歌舞伎などを題材とした灯籠が登場したのは江戸時代後期。明治以降に大型化・巧緻化しました。扇型の絵灯籠がねり歩く「弘前ねぶた」、高さ20mにもなる「五所川原立佞武多」「たちねぶた」など有名です。

青森県を代表する祭り ねぶた×ねぶた

2013年の予定	
青森ねぶた	8/2(金)～7(水)
弘前ねぶた	8/1(木)～7(水)
五所川原立佞武多	8/4(日)～8(木)
平川ねぶた	8/2(金)～3(土)

お問い合わせ 青森県観光連盟
電話 / 017-722-5080

優秀制作者賞
「奥州平泉の栄華 阿弖流為と清衡」
千葉作龍

2012年最優秀制作者賞
「東北の雄 阿弖流為」(あてるい)
竹浪比呂央



青森市文化観光交流施設 ねぶたの家ワ・ラッセ

青森市文化観光交流施設

岩|木|山



弘前市と鱒ヶ沢町にまたがる岩木山。津軽平野のどこからでも見える、その山容から津軽富士ともよばれます。古くから庶民の信仰を集め、お山参詣(今年は9/3)5)は津軽最大の秋祭りです。

お問い合わせ 岩木山観光協会

電話 0172-183-3000

初の女性ねぶた師北村麻子
による「逐鹿の戦い」



12人のねぶた師がワ・ラッセ開館を記念して制作した面



ねぶたの家 ワ・ラッセ

ねぶた祭に出陣した大型ねぶた5台をワンフロアに展示。タッチねぶた、跳人(踊り手)体験(土・日・祝1日3回)など、ねぶたをまるごと体感できます。
ところ / 青森県青森市安方1-1-1 電話 / 017-752-1311
開館時間 / 9:00～19:00(9-4月は18:00まで)、12/31と1/1、8/9・10休
入館料 / 600円、高校生450円、小中学生250円
交通 / JR青森駅から徒歩1分 <http://www.nebuta.or.jp/warasse/>

弘前

北前船が青森に寄港していた当時、藩の中心であった弘前は外来文化の影響を色濃く受けます。進取の気風の流れをくんだ瀟洒な洋館が数多く残っています。

レトロなサンルームで優雅に 大正浪漫喫茶室

弘前出身の実業家で、日本商工会議所初代会頭でもあった藤田謙一の別邸を整備した藤田記念庭園の洋館にあります。大正8年(1919)建築のサンルームから手入れの行き届いた庭園を眺めて優雅なひとときを。

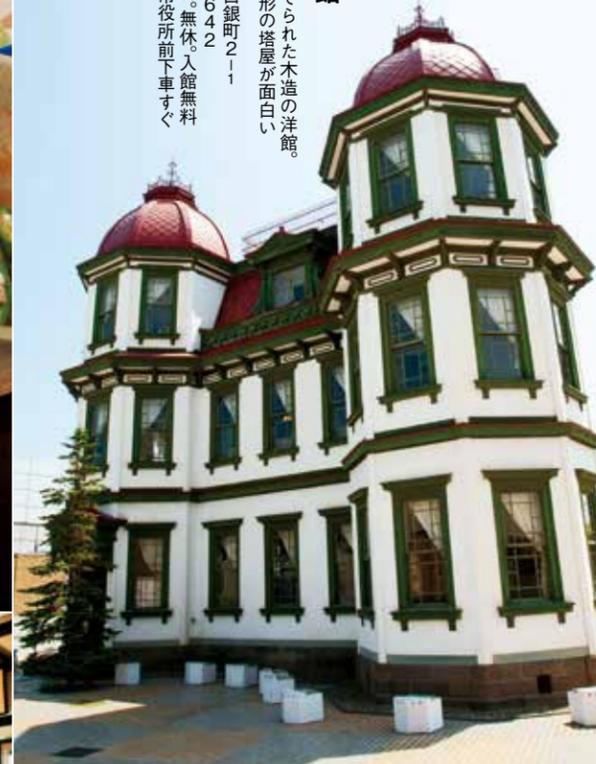


アップルパイとドリンクのセット700円。人気メニューのアップルパイは5〜6種類が揃う。オリジナル「ひろさきコーヒー」とご一緒に

ところ／青森県弘前市上白銀町8-1
藤田記念庭園内
電話／0172-37-5690
営業時間／9:00～16:30。12～2月は土・日・祝日のみ営業
交通／JR弘前駅からバス市役所前公園入口下車、徒歩3分

旧弘前市立図書館

明治39年(1906)に建てられた木造の洋館。ルネサンス様式、左右八角形の塔屋が面白い
ところ／青森県弘前市上白銀町2-1
電話／0172-18211642
営業時間等／9:00～17:00。無休。入館無料
交通／JR弘前駅からバス市役所前下車すぐ



史跡 弘前城

現在の天守閣は文化8年(1811)の再建です
ところ／青森県弘前市下白銀町1
電話／0172-33-8733
開園時間／9:00～17:00
開園期間／4月1日～11月23日
入園料／大人300円、小中学生100円
交通／JR弘前駅からバス市役所前公園入口下車すぐ



代表的な郷土料理を楽しめる同店1番人気の「縄文定食」1,890円。手前左から、麺でつけた「にしん切込」、タラのあらや根菜を味噌入りダシで煮込んだ「じゃっば汁」、大根の漬物「がっくら漬け」、ホタテや魚介を津軽味噌で煮込んで卵とじした「貝焼き味噌」など

青森 各地の郷土料理を揃えて みちのく料理 西むら

県内各地の郷土料理が味わえる気さくな店。地酒も豊富に揃っています。

ところ／青森県青森市安方1-1-14
青森観光物産館アスパム10階
電話／017-734-5353
営業時間等／11:00～21:00(LO)、1月第4週月～水曜日
交通／JR青森駅から徒歩8分



ウニの潮汁「いちご煮」。海の香りが広がる



陸奥湾が望める

海峡荘

大間町



「海峡丼」3,000円。大トロ、中トロ、赤身、サーモン、ハマチ、アワビ、ボタンエビ、タコ、ホタテ、ウニ、イクラの豪華競演



大トロ、中トロ、赤身の食べ比べは至福のとき。「まぐろだけ丼」2,500円

9・10月のシーズンは大間産生マグロを、4～8月は近海産の生マグロを使用した丼が看板料理。大満足の味と鮮度の良さです。

ところ／青森県大間町大間平 17-734
電話／0175-37-3691
営業時間等／10:00～15:00(材料がなくなり次第終了)。4月中旬～11月第1週。不定休
交通／JR下北駅からバス1時間45分。大間崎下車すぐ <http://www.echigo-tsumari.jp/>

地獄と極楽を巡りゆく

霊場恐山

鼻を刺す硫黄の匂い。ガスの噴出するゴツゴツした岩肌あらわな丘のあちらこちらに、小石が積み上げられ、風車が回る。目を転じれば澄み切った湖をとりまく白砂の浜。恐山境内は、ま

さに地獄と極楽を巡りゆくかのよう。今から1200年前、下北の地にたどりついた慈覚大師による開山。古くから信者の参拝が絶えず、特に7月20日〜24日の大祭典、10月体育の日を最終日とする土・日・祝の秋詣りは、多くの参拝客が訪れます。境内には4つの湯があり、入山者は自由に利用可。イタコの「口寄せ」でも知られています。

ところ／青森県むつ市田名部字宇曾利山3-2
 電話／0175-22-3825
 開山期間／5月1日〜10月末日
 開門時間／6:00〜18:00
 入山料／500円、小中学生200円。宿坊もあり(1人12,000円)
 交通／JR下北駅からバス45分、恐山下車すぐ

山門。納められている風車は輪廻転生の象徴とも、花の代りとして納められているとも



高台から境内を見守るように立つ延命地藏尊



巨大な卒塔婆



境内に噴出する硫黄ガス。お賽銭の硬貨はいずれも黒ずんでいた



慈覚大師堂から賽の河原を振り返る



静寂につつまれた宇曾利山湖と極楽浜



地藏殿。慈覚大師が自ら彫刻したという本尊の延命地藏尊を安置する。6:30、11:00、14:00の3回御祈祷が行われる



境内入口には俗界と死者の世界を分かちという三途川がかかる



八戸に住むイタコの中村タツさん。霊媒者であるイタコが死者の霊を呼び、その言葉を伝えるのが「口寄せ」。恐山境内では大祭典、秋詣りにイタコの姿を見られることがあるが、イタコと恐山は元来無関係。恐山では歴史的経緯等からイタコを阻むことはないが、照会・紹介などは一切行っていない

大間崎



「こ、本州最北端の地」の碑が立つ大間崎。北海道函館市とは17.5kmしか離れていない。一本釣りで知られる大間のマグロは「クロマグロ」。平均100kg前後の大きさ